

米ソ冷戦終焉直後の頃には、デモクラティック・ピース論に沿った楽観的な世界観が一定の支持を得ていた。民主化が各国に波及していくことで国際政治におけるリベラル・ピースの実現が可能になるかもしれないといったヴィジョンは、それなりの妥当性をもっているようにも見えたものである。しかし、それから約四半世紀、アフガニスタン戦争、イラク戦争そして「中東の春」を受けた内戦（特にリビア、シリアなど）と、レジーム・チェンジ（体制移行）を目的とした欧米諸国の軍事介入が結果として大きな政治的混乱をもたらす要因の一つになったことは否定できないであろう。その混乱が、地域を越えた難民流出やテロの拡散といった問題を招くなど、国際情勢に大きな影を投げかけている。こうした現象を「グローバル内戦」と呼ぶ研究者もいるように、そこに主権概念の変容を含めた国際政治の質的転換を看守することもできよう。またウクライナ情勢などが示すように、欧米諸国の介入が逆に、ロシア側の反発・介入を招くなど、国際政治の緊張をもたらしているのも、体制移行を目的とした介入が国際政治全体に影響を及ぼす事例の一つとして挙げられるであろう。こうした状況の背景には、アメリカの圧倒的な力の優位性の喪失に伴う国際政治における多極化という大きな流れ（パワー・シフト）があるということは多くの論者が既に指摘していることではある。

本特集の目的は、以上のような状況を鑑みて、国際政治研究、地域研究（特に一国研究）、さらには比較政治研究などの有機的統合を目指しつつ、各国レベルの体制移行（例えば革命的体制移行や内戦化）が国際秩序に及ぼす影響、また国際政治における変化が各地域・各国の体制に対して及ぼす影響などを中心に、多角的に再検討することにある。多角的に検討するという意味の中には、単に動向研究や事例研究的なものにとどまらず、より長期的な視点からの理論・歴史・思想に焦点を当てた検討といったものも含まれている。例えば、そこには、長期的歴史の観点から、リベラルな世界秩序の方向に収斂しつつあるのか、または多様化・多中心的な世界へと向かっているのか、といったことを再検討するという課題も含まれよう。また、そのことと関連して、昨今、ドメスティック・レベルでは政治体制の性格が包摂から排除へと向かっている傾向が見られるが、それがグローバル・レベルでの同様の動き（例えば「保護する責任」論のような脱領土化を促すようなコスモポリタニズムから反移民のような排他的な再領土化を目指すショービニズムへのバックラッシュ）と、どのように連関しているのかといったことも、重要な問題の一つであろう。また、歴史的アナロジーということ言えば、かつてファシズムや共産主義などの「逸脱レジーム」との世界秩序をめぐる戦争（第二次世界大戦や冷戦）があり、その戦争が国際政治の構造を大きく規定してきたように、タリバーンの支

配していたアフガニスタンやイスラーム国家（IS）といった「逸脱レジーム」との、いわゆる「対テロ戦争」が、現在の国際政治やドメスティック・レベルの安全保障国家の有り様に大きな影を投げかけているとも言えよう。

ドメスティック・レベルの質的变化（体制移行）とグローバル・レベルの質的变化（世界秩序の変容）との連関に着目する研究は半世紀近く前から行われてきたが、先述したデモクラティック・ピース論に代表されるような議論の多くは、やはり欧米中心主義的な歴史観と無縁でなかったのが実情である。地域固有の論理などに、よりセンシティブであった本学会の特色を生かす形で、欧米中心主義的な国際関係論(IR)と差別化をはかりながら、先に述べたような国内秩序と国際秩序との連繋といった古典的な問題に対して、独自の角度からの新たな議論展開を行うことができれば、本特集号の目的は半ば達成されたということになるであろう。もちろん英語圏におけるポスト構造主義やポストコロニアル研究の影響を受けた脱・覇権主義ないしは脱・欧米中心主義志向の IR 研究の台頭もあるので、そうした新しい流れと切り結ぶ形になれば、なお幸いである。

本特集に応募される論文は、基本的に先に述べたような問題群のいずれかを射程に入れていれば、どのようなものでも構いません。もちろん国際関係論と地域研究などを架橋するような論考であれば、なお一層歓迎します。また、それらにとどまらず、より広く文明史的研究や思想史的研究なども、公募の対象となります。多方面からの御投稿を歓迎します。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600-800 字程度にまとめ、自宅・勤務先の住所・電話・ファックス・メールアドレスを明記して、2017年 8月 30日(期限厳守)までに、下記の編集責任者にメールでお送り下さい。テーマとの関係、本特集号の全体構成などを総合的に検討したうえで、執筆をお願いする方には、2017年 10月 31日までに御連絡いたします。なお、論文の最終締め切りは、2018年 3月 31日、論文の分量は註を含めて必ず 2万字以内とします。ご提出いただいた論文は、2名以上の査読者による査読の対象となります。修正を含め、最終的な掲載の可否は査読後に決定しますので、この点を含めてご了承下さい。執筆要領については、学会ホームページを御参照下さい。要領を遵守してのご執筆をお願いします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/dociments/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせについては、以下の編集責任者まで、よろしくお願ひいたします。

《編集責任者》 土佐弘之

《連絡先》 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学大学院国際協力研究科

電話&Fax 078-803-7149

E-mail: [tosa アットマーク kobe-u.ac.jp](mailto:tosa@kobe-u.ac.jp) (アットマークは@に置換してください)